

期間：2014 年 10 月 22 日～24 日

場所：南相馬市小高区

参加人数：15 名

1. はじめに

連合会が主催する震災復興活動に初めて参加しました。個人的に 2011 年 5 月（震災から 2 ヶ月後）、南三陸町への復興支援に行つて以来の活動となりました。

震災から 3 年が過ぎボランティアの数も少なくなつてきていると聞いています。今、どのようなボランティアが必要なのか、復興の現状がどうなつているのか知り、「私にできることはないのか」という思いを持って参加しました。

2. 活動 1 日目

今回活動した南相馬市小高区は、福島第一原子力発電所から 20 km 圏内にあり、警戒区域の指定が解除されていますが、日中に限つて住民の出入りが認められている地域になります。まず始めに南相馬市ボランティア活動センターに立ち寄り、今回のボランティアの説明と心構えをセンター長からお話を受けました。私たちの他にも 10 名弱の方がボランティアに参加されていました。

南相馬市小高区の現状は、道路、建物、信号も復旧しており、一見すると普通に生活できるように見えますが、飲食店や小売店は閉鎖したままの場所や、生活感のない家が多く、農地は荒れており、復興はまだ途中だということを感じました。

まず最初にお伺いしたのは、震災により避難を余儀なくされた方の自宅の後片付けでした。家の中は時が止まっているかのごとく、震災当時のままでした。それでも新しい生活に向けて、前に進もうとしている依頼者の方と一緒に後片付けをしたのですが、思い出がつまっている家や思い出の品を見ている顔がどこか寂しげでした。ボランティアは単なるお手伝いではなく、依頼者の気持ちにどこまで寄り添い、共感できるかが重要だと改めて感じました。

次にお伺いしたのは、私有地に竹藪や草が生い茂つてしまつている場所の整備でした。竹藪の成長はものすごく、使い慣れない草刈り機などを使つての作業は大変でした。持参した長靴（鉄板入りセーフティーソール）やゴム手袋が非常に役に立ちました。

この日の作業終了後、バスで 2 時間かけて仙台まで戻りました。夜はボランティアに参加されたみなさんとの懇親会でした。複数回参加されている方も多いいことにびっくりし

ました。

3. 活動2日目

2日目の活動も南相馬市小高区で、営業再開に向けて努力している花の苗を育てる会社の復旧でした。ビニールハウスの中は、震災当時に育てていた花の苗が枯れてしまっていて、とても数人では片づけることができないほどの状況でした。土を捨てるたびに埃がまわってマスクが欠かせない状況でしたが、依頼者からの避難生活やこの春に営業を再開したいお話を伺い、前のように早くビニールハウスを花でいっぱいになりたいという一心で、作業の手も早まりました。帰りの電車の関係で、途中で切り上げなければならなかったことは心残りでしたが、この町に戻り再建に向けて頑張っている依頼者のお手伝いできたことは、非常にうれしく思いました。

4. 最後に

ボランティアの内容も震災から月日が経つにつれて、変化していることに気づきました。事業を再建しようとしている人、事業の再建を断念して後片付けをする人、他の町に移り住むために家を片づける人、今まで以上に多様な依頼があるのだと感じました。

今回のボランティアは貴重な経験となりました。今回参加した思いを周りの人に伝えてボランティアの輪が広がっていくように努めたいと思います。

